

In New Zealand Christchurch

第3回 FIG Young Surveyors Conference

第11分科会委員長 藤井十章



第3回青年測量者大会レポート

概要

平成28年4月30日と5月1日にかけて開催された第3回目の FIG Young Surveyors Conference 2016 に参加、次世代の測量者がどのような活動を行っているか紹介します。

ニュージーランドのクライストチャーチは、東日本大震災前に大きな地震に見舞われ、4度に分けられて続いた、そうしたことから本大会である FIG WW 2016 のテーマは、「震災からの復興」ということで、青年測量者大会においても、災害時での活動はもちろんのこと、青年測量者が何をなすべきかということディスカッションした。

第1日目(4月30日)

オープニングセッションにおいて、ニュージーランドの測量協会からマーク・アーレン氏、FIG会長のクリッシー・ポトショウ氏、FIG財団のジョン・ホール会長、セッションマネージャーとして青年会長のエバマリア・アンガー、副会長のポーラ・ディストラ、ニュージーランド青年測量者からメリッサ・オーブレンが挨拶した。



Rescue - Life and Work in the Disaster Zone

今大会のセッションは、3つに分けられ、Rescue, Regenerate, Reboundという3つ“R”からなる。最初のレスキューに関するセッションにおいては、これまで災害が起こった地域であるニュージーランドの地震、日本の地震、フィジーのサイクロンを取り上げ、それぞれの国でどのような初動や対応を行ったか、発表がなされた。



へ呼びかけた。

マーク・ミリヤル、ニック・サンダース氏による災害の概要が説明された。ニュージーランドの震災は、日本の震度より強くないものの、液状化が酷く、土から溢れ出す泥が生活を困難にした。学生団体のボランティアや、シニアボランティアが協力して、震災時の助け合いの大切さを参加者

2番目に日本からは、主に東日本大震災と2週間ほどしかたっていない熊本の震災についてのプレゼンを行い、地理院地図や空撮によるオルソ画像作成などの活動がボランティアを支援し、現地における災害対策ツールの活用を発表を行った。



特に、日本の震災の対応の早さについては、各国の参加者からの称賛する声が多く、日本の震災での活動に自信が持てた印象を受けた。

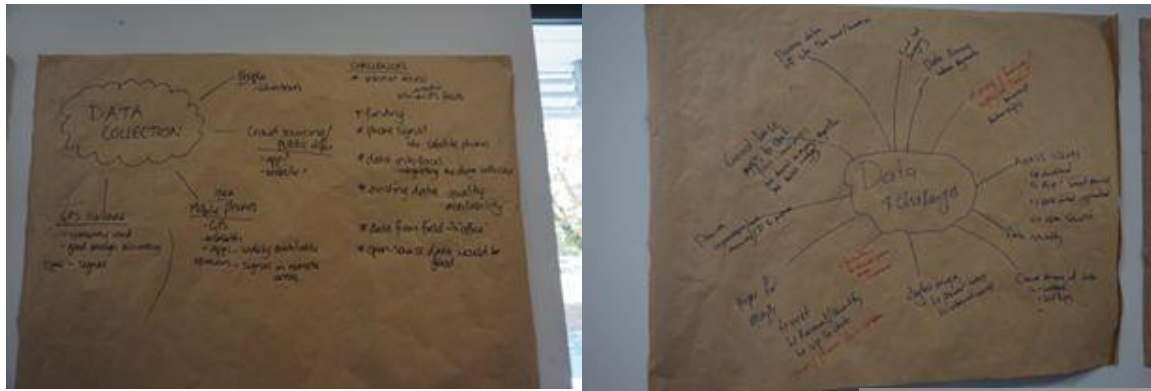


3番目のフィジーのサイクロンによる被害の報告は、地震災害と異なった深刻な被害が報告された。発生時から被害が起こるまでに時間があるということであるが、近年の異常気象により、その対策については、十分に対策されていない地域に起こる。また、災害復旧に関しても迅速に行われていないことから衛生面での課題、再建に関する課題が大きいことが挙げられた。

Rescue - Action in the Disaster Zone

災害時における初動で大切なものは、第1に被害の把握にあると MapAction のトーマス・ラドガー氏は語る。このセッションは、最新のクラウドテクノロジーを利用した GIS における役割と災害マップをボランティアで作成し、その他の情報とともに人道支援を行う活動から、これからの測量者の役割を認識するというきっかけを投げかけられた。中でもネパールのカトマンドゥにおける事例を紹介、多くの測量者の意識改革のきっかけになった。





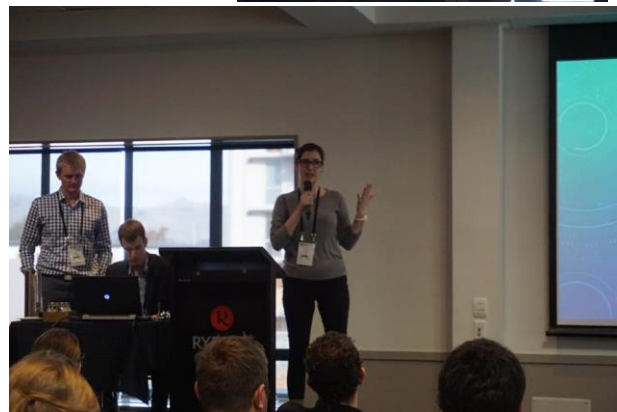
Regenerate - Thriving in Uncertain Times

ソーシャルメディアが持つ、人のつながりに関しての力が再認識される中で、ネットワークと技術が結合することにより、新しいソリューションが提供される。

ここでは、ネパールの震災の事例、YSN で行われたオープンストリートマップの作成活動、日本からはリプロの岡田謙吾氏から、日本の境界標識が、東日本大震災によって8000キロ離れたアメリアまで流された物語が紹介され、IoT として境界標識

のあり方から、標識が移動することや移動量が災害後に測定的する利点をプレゼンし多くの青年測量者からの反響があった。それぞれの話題について興味のあるグループに参加し、ディスカッションがなされ、発表が行われた。

また、ディスカッションの後に、どの話題に興味あるかの投票を行ったところ、岡田謙吾氏からのプレゼンが最も多かった。





第2日目(5月1日)

5月1日は、クライシスチャーチの被災地とニュージーランド観光が行われた。



チャリティーマラソンでは、中心部にある公園を2周し、ともに汗をかいた。青年大会は、多くのレクリエーションにより、全世界から様々な環境の測量者が集まり、話し合いそして考えて理解しあえる場になっている。しかしながら、遠方という理由でヨーロッパおよびアメリカからの参加者が少なかったことも気がかりであるが、各地の青年大会が盛り上がりを見せていることから、そうした結果が青年測量者のネットワークの原動力になっていると感じる。

ワーキングウィークにおける YS 活動

青年大会は、2日開催されたが、4年前のローマ大会では、本大会まで参加していると長期



間の滞在になってしまうという意見が、2年前のマレーシア大会では、ワーキングウィーク開催中に大会が並行して開催されたことにより、テクニカルセッションが観に行けないという意見が出されていた。そのため、本大会でも YS のセッションも埋め込まれる形が取られ、より参加しやすく、改善策が取られていたことが印象に残る。

GLTN(Global Land Tool Network)と YSN の共同セッションにて、社会的保有権ドメインモデル(STDM)のトレーナートレーニングがあり、QGIS のプラグインソフトである、貧困地域の土地調査ツールの講習会があった。これまで、マレーシア及びアフリカを中心とする地域で開催されていたが、ニュージーランド大会でも改良された STDM のインストールから証明書の作り方までの説明がなされた。



また、今後の青年活動についてのディスカッションも行われ、どのようなキーワードがあるのかを話し合い、アセンブリセッションでの大会の総括として発表がなされた。

Young Surveyors Network Asian Pacific 会議(番外)

ニュージーランドもアジア太平洋地域に含まれているが、マレーシアに続き、第2回目のアジア太平洋を中心とした大会を開くべく、大会前から Facebook などでも議論がなされてきた。マレーシアのケルビン、フィリピンのドン・マール、ネパールのナルビン、ニュージーランドのメリッサ、日本からは藤井が主としてグループについて世話することとして、2019年のベトナム大会を視野に調整していくことで合意した。日本では次のリーダーに引き継いで、サポートしていきたい。



最後に

全体として写真が多くなり、内容が見えにくいと感じる人も少なくないと思われるが、YSの活発なものは、写真で十分だと思われる。また、今後、参加する日本の青年測量者がどのような活動を行っているのか、どんな人が参加していたのかを継承できたらと思う。FIG YSNのFacebookには私が撮影した400枚以上の写真をアップロードしているので、そちらも参照されたい。